

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	MEPを含む 農業の 総使用回数		
とうもろこし	アワノメイガ、カメムシ類 ツマジロクサヨトウ	1000	100~300 ℓ/10a	収穫7日前 まで	4回 以内		4回 以内		
りんご	アブラムシ類	1000~2000	200~ 700 ℓ /10a	収穫30日前 まで	3回 以内	散布	3回以内 (樹幹処理は 2回以内)		
	ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ ハマキムシ類、ナシグンバイ アメリカシロヒトリ	1000							
	クワコナカイガラムシ	1500							
なし (有袋栽培)	アブラムシ類	1000~2000		収穫14日前 まで	6回 以内			6回以内	
	シンクイムシ類、ハマキムシ類 ナシグンバイ、ナシホソガ ナシチビガ、カメムシ類 アメリカシロヒトリ	1000							
	クワコナカイガラムシ	1500							
なし (無袋栽培)	アブラムシ類	1000~2000		収穫21日前 まで	6回 以内				6回以内 (樹幹処理は 1回以内)
	シンクイムシ類、ハマキムシ類 ナシグンバイ、ナシホソガ ナシチビガ、カメムシ類 アメリカシロヒトリ	1000							
	クワコナカイガラムシ	1500							
かき	ハマキムシ類、カキノヘタムシガ カキホソガ、フジコナカイガラムシ オオワタコナカイガラムシ カメムシ類、イラガ類 アメリカシロヒトリ ミノガ類若齢幼虫	1000		200~ 700 ℓ /10a	収穫30日前 まで				
もも	アブラムシ類、モモハモグリガ ナシヒメシンクイ(心折防止)	1000~2000	1000	収穫3日前 まで	6回 以内	散布	6回以内 (樹幹処理は 1回以内)		
	ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ ハマキムシ類、クワシロカイガラムシ カメムシ類	1000		成虫発生初期 但し、収穫 3日前まで					
	クビアカツヤカミキリ			収穫3日前 まで					
	クワコナカイガラムシ							1500	
みかん	アブラムシ類	1000~2000	1000	収穫14日前 まで	5回 以内	無人 航空機 による 散布	5回以内 (樹幹処理は 1回以内)		
	ハマキムシ類 サンホーゼカイガラムシ アザミウマ類、カメムシ類 カネタタキ、ケシキスイ類 ミカンツボミタマバエ コアオハナムグリ フラーバラゾウムシ ミカンキジラミ、コナカイガラムシ類	10							
	ケシキスイ類、コアオハナムグリ アザミウマ類							5 ℓ/10a	
	アブラムシ類							1000~2000	
かんきつ (みかんを 除く)	ハマキムシ類 サンホーゼカイガラムシ アザミウマ類、カメムシ類 カネタタキ、ケシキスイ類 ミカンツボミタマバエ コアオハナムグリ フラーバラゾウムシ ミカンキジラミ コナカイガラムシ類	1000	200~ 700 ℓ /10a		3回 以内	散布	3回以内 (樹幹処理は 1回以内)		

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用流量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	MEPを含む 農薬の 総使用回数			
大粒種 ぶどう	アブラムシ類 フタテンヒメヨコバイ ブドウスカシバ、ブドウトリバ	1000~2000	200~ 700 ℓ /10a	収穫 21 日前 まで	2回 以内	散布	4回以内 (収穫終了後 から萌芽まで は2回以内、 萌芽後は 2回以内)			
	ハマキムシ類 ブドウトラカミキリ キンケクチブトゾウムシ成虫	1000								
	クワコナカイガラムシ	1500								
小粒種 ぶどう	アブラムシ類 フタテンヒメヨコバイ ブドウスカシバ、ブドウトリバ	1000~2000		収穫 90 日前 まで						
	ハマキムシ類 ブドウトラカミキリ キンケクチブトゾウムシ成虫	1000								
	クワコナカイガラムシ	1500								
おうとう	アブラムシ類	1000~2000		収穫 14 日前 まで				2回以内	散布	2回以内 (樹幹処理及 び灌注処理は 合計1回以内)
	ハマキムシ類、ナシグンバイ アメリカシロヒトリ	1000								
うめ	アブラムシ類	1000~2000		成虫発生初期 但し、収穫 14 日前まで				2回以内	散布	2回以内
	アメリカシロヒトリ、ハマキムシ類 クビアカツヤカミキリ	1000								
オリーブ	オリーブアナアキゾウムシ	50	0.3~ 3 ℓ/樹	収穫 21 日前 まで	3回 以内	樹幹 散布	3回以内			
オリーブ (葉)				収穫 120 日 前まで						
いちよう (種子)				収穫 60 日前 まで						
くり	モモノゴマダラノメイガ	8	3 ℓ/10a	収穫 14 日前 まで	4回 以内	空中 散布	4回以内 (樹幹処理は 1回以内)			
いちご	アブラムシ類	2000	100~ 300 ℓ /10a	収穫前日 まで	2回 以内	散布	2回 以内			
ほうれんそう	アブラムシ類 ホウレンソウケナガコナダニ	1000~2000		収穫 21 日前 まで						
ねぎ	アブラムシ類	1000~2000		収穫 14 日前 まで						
	アザミウマ類 ネギコガ	700~1000 1000								
ごぼう	アブラムシ類、フキノメイガ	1000~ 2000		収穫 21 日前 まで						
たまねぎ	アブラムシ類 アザミウマ類	700~1000								
トマト	アブラムシ類 オオニジュウヤホシテントウ	2000		収穫前日 まで				5回 以内	散布	5回 以内
なす	アブラムシ類、テントウムシダマシ類	1000~2000								
きゅうり メロン しろうり	アブラムシ類	1000~2000		収穫 3 日前 まで				6回 以内	散布	6回 以内
	アザミウマ類	700~1000								
すいか	アブラムシ類	1000~2000	収穫 14 日前 まで	3回 以内	散布	3回 以内				
	アザミウマ類	700~1000								
かぼちゃ	アブラムシ類	1000~2000	3回 以内	散布	3回 以内					
	アザミウマ類	700~1000								

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	MEPを 含む農薬 の総使用 回数	
だいず	マメシンクイガ、ダイズサヤタマバエ シロイチモジマダラメイガ マメヒメサヤムシガ、カメムシ類	20	3 [㍓] /10a	収穫 21 日前 まで	4 回 以内	空中 散布	4 回以内	
	ダイズサヤタマバエ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤムシガ、カメムシ類 ウコンノメイガ、マメシンクイガ	8	800 ml /10a					無人 航空 機に よる 散布
	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ、カメムシ類 マメヒメサヤムシガ、ウコンノメイガ マメハンミョウ	1000						
	アブラムシ類	1000~2000						
	マメシンクイガ	1000~1500						
豆類(種実、ただし、 だいず、あずき、 いんげんまめ、そら まめを除く)、 豆類(未成熟、た だし、えだまめ、さや いんげん、未成熟そ らまめを除く)	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ、カメムシ類 マメヒメサヤムシガ	1000		収穫 3 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内	
	アブラムシ類	1000~2000						
	マメシンクイガ	1000~1500						
未成熟 そらまめ	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ、カメムシ類 マメヒメサヤムシガ	1000		収穫 3 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内	
	アブラムシ類	1000~2000						
	マメシンクイガ	1000~1500						
えだまめ	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ ウコンノメイガ	1000	100~ 300 [㍓] /10a	収穫 21 日前 まで	4 回 以内	散布	4 回以内	
	アブラムシ類	1000~2000						
	マメシンクイガ	1000~1500						
いんげんまめ	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ、カメムシ類 マメヒメサヤムシガ、インゲンテントウ インゲンマメゾウムシ	1000		収穫 21 日前 まで	4 回 以内	散布	4 回以内	
	アブラムシ類	1000~2000						
	マメシンクイガ	1000~1500						
さやいんげん	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ、カメムシ類 マメヒメサヤムシガ、インゲンテントウ	1000		収穫 21 日前 まで	4 回 以内	散布	4 回以内	
	アブラムシ類	1000~2000						
	マメシンクイガ	1000~1500						
あずき	アズキノメイガ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ、カメムシ類 ナミハダニ、マメヒメサヤムシガ マメホソクチゾウムシ	1000		収穫 21 日前 まで	4 回 以内	散布	4 回以内	
	アブラムシ類	250	25 [㍓] /10a					
	マメシンクイガ	1000~1500	100~ 300 [㍓] /10a					
そらまめ	アブラムシ類	1000		収穫 3 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内	
ばれいしよ	アブラムシ類	250	25 [㍓] /10a	収穫 3 日前 まで	6 回 以内	散布	6 回以内	
	アブラムシ類、テントウムシダマシ類							
こんじやく	アブラムシ類	1000	100~ 300 [㍓] /10a	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内	

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	MEPを含む 農薬の 総使用回数							
かんしょ	イモコガ、アブラムシ類 ヨツモンカメノコハムシ	1000	100～ 300 $\frac{\text{㍓}}{\text{㍓}}$ /10a	収穫7日前ま で	5回 以内	散布	5回以内							
うど	アブラムシ類、センノカミキリ ヒメシロコブゾウムシ ウドノメイガ、ヨトウムシ			根株養成期 但し収穫 150日前まで	4回 以内		4回以内							
モロヘイヤ	マメコガネ、アザミウマ類 アブラムシ類、カメムシ類			収穫14日前 まで	2回 以内		2回以内							
わらび	ナガゼンマイハバチ			収穫 90日前まで										
らっきょう	ネダニ類	1000～2000	—	植付前	1回	30分間 種球浸漬	3回以内 (植付前は 1回以内、 植付後は 2回以内)							
	アザミウマ類	1000	100～ 300 $\frac{\text{㍓}}{\text{㍓}}$ /10a	収穫 7日前 まで	2回 以内	散布								
	アザミウマ類、ネギハモグリバエ	8	1.6 $\frac{\text{㍓}}{\text{㍓}}$ /10a			無人航空 機による 散布								
せり	アブラムシ類	2000	100～ 300 $\frac{\text{㍓}}{\text{㍓}}$ /10a	親株養成期 但し収穫 45日前まで	2回 以内	散布	2回以内							
たらのき	センノカミキリ幼虫 ヒメシロコブゾウムシ	100	150～ 300 $\frac{\text{㍓}}{\text{㍓}}$ /10a	3～5月 株養成期		樹幹 散布								
茶	コカクモンハマキ、チャノホソガ	700～1000	200～ 400 $\frac{\text{㍓}}{\text{㍓}}$ /10a	摘採21日前 まで	1回		1回							
	ミノカ類	1000												
まめ科牧草	ヨコバイ類、アブラムシ類 ウンカ類、ウリハムシモドキ ゾウムシ類	1000～2000	100～ 300 $\frac{\text{㍓}}{\text{㍓}}$ /10a	収穫 14日前 まで	2回 以内	散布	2回以内							
	ムギダニ	1000												
いね科牧草	ヨコバイ類、アブラムシ類 ウンカ類、ウリハムシモドキ ゾウムシ類	1000～2000		収穫30日前 まで	3回 以内		3回以内							
	ムギダニ、アワヨトウ	1000												
飼料用 とうもろこし	アブラムシ類	2000		収穫14日前 まで	3回 以内		3回以内							
セネガ		1000												
花き類・ 観葉植物	アオムシ、バッタ類 ハマキムシ類、アザミウマ類	1000～2000		—				散布						
ばら	アブラムシ類													
きく	アブラムシ類	1000～2000		100～ 300 $\frac{\text{㍓}}{\text{㍓}}$ /10a	—			散布						
	フラワーバラゾウムシ	1000												
カーネーション	アブラムシ類	1000～2000			—					6回 以内	6回以内			
	フラワーバラゾウムシ、カメムシ類 ヨトウムシ類													
カーネーション	アザミウマ類、クロウリハムシ	1000			200～ 700 $\frac{\text{㍓}}{\text{㍓}}$ /10a		発生初期		6回 以内	6回以内				
宿根かすみそう	ハモグリバエ類													
りんどう	ヒラズハナアザミウマ		—											
アスター	ウリハムシ													
ソリダゴ	カメムシ類		—											
スターチス	コガネムシ類													
シネラリア	シンクイムシ類		—											
斑入り アマドコロ	コウモリガ													
ききょう	ヨトウムシ		500～1000			200～ 700 $\frac{\text{㍓}}{\text{㍓}}$ /10a	—							
樹木類	アメリカシロヒトリ											1000	—	移植前
	フラワーバラゾウムシ、アブラムシ 類 ゲンバユスデ蛾類													
	オオハリセンチュウ		500	—		移植前	1回	30分間 根部浸漬						

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農業の総使用回数
つつじ類	グンバイムシ類、ハマキムシ類	1000	200～700 ㍈/10a	—	6回以内	散布	6回以内
せんりょう	アザミウマ類、カメムシ類						
こでまり	カイガラムシ類						
しきみ	クスアアナキゾウムシ						
にしきぎ	ケムシ類						
しゃりんばい だいおうしょう	シンクイムシ類						
さかき	ハマキムシ類 サカキブチヒメヨコバイ						
さくら	クピアカツヤカミキリ						
さんごじゅ	ワタノメイガ						
げつきつ	ミカンキジラミ						
たばこ	ヨトウムシ	25～180 ㍈/10a	収穫20日前まで	1回	1回		
しちとうい	イネクロカメムシ	60～150 ㍈/10a	発生初期	2回以内	2回以内		
芝	シバツトガ、スジキリヨトウ	0.3～2 ㍈/㎡		6回以内	6回以内		
	コガネムシ類幼虫	3 ㍈/㎡					
	シバオサゾウムシ		幼虫発生期				
桑	クワゾウムシ成虫	500～750	100～300 ㍈/10a	成虫発生期			

作物名	適用場所	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農業の総使用回数
水田作物、畑作物(休耕田)	ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田	カメムシ類	1000	60～150 ㍈/10a	4回以内	散布	4回以内

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- ボルドー液と混用する場合は散布直前に行い、できるだけ早く使用すること。ただし、その他のアルカリ性の強い農業との混用はさけること。
- ももの初期散布(5～6月)には薬害のでることがあるので注意すること。
- 稲(箱育苗)のイネシンガレセンチュウに使用する場合は下記の事項に注意すること。
 - ◆ 発芽期～緑化期の使用は薬害を生じるおそれがあるのでさけること。
 - ◆ 軟弱徒長苗、ムレ苗などの場合は薬害を生じるおそれがあるのでさけること。
 - ◆ 土壌が極端に湿潤な場合は使用しないこと。
- イネシンガレセンチュウの本田における防除に使用する場合、散布適期は出穂の頃であるので時期を失ないように散布すること。なお効果を高めるためには出穂始めとその一週間後の2回散布が望ましい。
- 水稲種子の吹き付け処理の場合は、専用の種子消毒機を使用し、乾燥種籾に均一に付着するよう所定薬液を吹き付けて乾燥すること。なお処理後、長期間保存する場合には、薬液処理を行ったことを明記し、間違いのないようにすること。
- 本剤を本田の水稲に対して希釈倍数300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- クワゾウムシに対しては成虫が桑樹に集まる4月下旬から6月頃に散布すること。成虫の活動は長期間にわたるので発生状況に応じて追加散布すること。
- かきのミノガ類に使用する場合、幼虫が大きくなると効果が劣るので若令幼虫時に時期を失ないように散布すること。
- 果樹のカメムシ類に対しては発生に応じて所定使用回数以内で繰り返し散布すること。
- 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- 本剤を空中散布及び無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守ること。
 - ◆ 散布薬液の飛散によって他の動植物(特にあぶらな科作物、桑、さといも、ソルゴ等の農作物、養蚕、養蜂)に影響を与えないよう散布区域の選定に注意すること。
 - ◆ 水源池、飲料用水、養殖池等に本剤が飛散流入しないように十分注意すること。
- 本剤を空中散布及び無人航空機による散布に使用する場合は更に次の注意を守ること。
 - ◆ 散布は各散布機種別の散布基準に従って実施すること。
 - ◆ 少量散布(8倍液)の散布には、微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。
 - ◆ 無人航空機による散布にあつては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - ◆ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - ◆ 特定の農業(混用可能が確認されているもの)を除いて原則として他の農業との混用は行わないこと。

- ◆ 散布終了後は次の事項を守ること。
 - ①使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に適切に処理すること。
 - ②使用残りの薬液は必ず安全な場所に責任者をきめて保管すること。
 - ③機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- なしの早生赤種、りんごの旭及びその近縁種には薬害のでることがあるので使用はさけること。
- 本剤を希釈倍数250倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を利用すること。
- 宿根かすみそうに使用する場合、開花期には薬害を生じることがあるので、この時期の使用はさけること。
- あぶらな科作物には薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- ひのきに対しては個体によって落葉、枯損にいたるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- ほうれんそうに使用する場合、幼苗期には薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- 牧草地に散布した場合は、散布直後の放牧はさけること。
- まめ科牧草のアルファルファゾウムシに使用する場合は、幼虫発生期～成虫発生初期に散布すること。なお、防除適期等については病害虫防除所職員等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- かんきつのミカンツボミタマバエ防除に使用する場合は、成虫の発生初期に樹冠部及び主幹部を中心とした樹の内部、樹冠下の地表面に散布するのが効果的である。
- 芝のコガネムシ類幼虫に使用する場合は、散布液が土壤中に十分しみ込むようジョロ等で1㎡当り3ℓを散布すること。
- フラーパーラゾウムシ及びミカンキジラミに使用する場合は、植物防疫事務所、病害虫防除所等関係機関の指導のもとに実施すること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 蚕に対して影響があるので、給桑を予定している桑葉にはかからないようにすること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ◆ ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - ◆ 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の果樹園等では使用をさけること。
 - ◆ 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などのないよう注意すること。
- ❖ 本剤の解毒剤としては硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤の投与が有効であると報告されている。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ❖ 使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
 - 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
 - 空中散布または無人航空機による散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意すること。
 - 散布後は水管理に注意すること。
 - 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
 - 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 危険物第4類、第2石油類に属するので火気には十分注意すること。
- ❖ 保管：火気をさけ、直射日光のあたらない低温な場所に密栓して保管すること。